

中小企業設備投資動向調査 [2024年7月調査]

(対象は断りのない限りすべて国内設備投資)

調査要旨

1 設備投資「有」比率…23年度実績、24年度修正計画ともに前年並の高水準

2023年度実績をみると、設備投資実施「有」企業割合は全体の64.8%と、2003年度以来の高水準。また、2024年度修正計画も、設備投資「有」が全体の53.4%と2006年度以来の高水準であった前年並で、引き続き設備投資意欲は堅調。

2 設備投資の目的…合理化・省力化、情報化投資が増加

長期での推移をみると、「合理化・省力化」、「情報化投資」が増加を続けている。設備投資を行わなかった理由では、「必要な人材が確保できない」が増加しているほか、「資源高による投資コスト上昇」や「土地価格の上昇」、「金利水準が高い」など、コスト高関連の割合が増加。

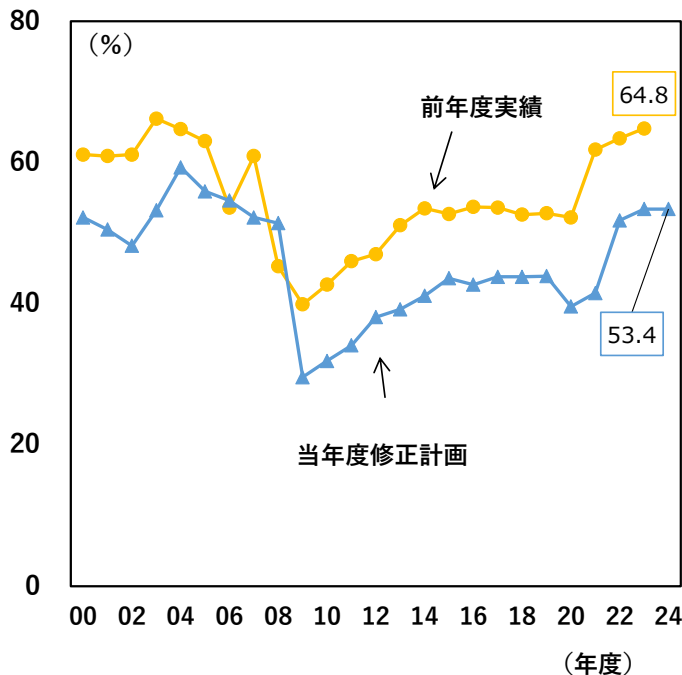
3 設備投資額の増減率…前年度の高い伸びには及ばないものの引き続き増加、製造業では限定的

設備投資額の増減率をみると、全産業の2023年度実績は2022年度実績対比+8.2%。2024年度修正計画は2023年度実績対比▲6.5%。

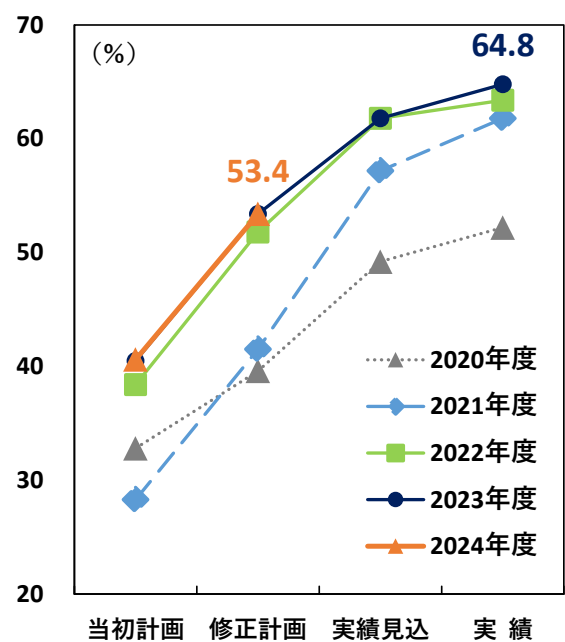
製造業の設備投資額の増減率は、2023年度実績で2022年度実績対比+3.6%と伸びが限定的。

<設備投資「有」とした企業の割合の推移>

《前年度実績と当年度修正計画推移》



《当初計画⇒修正計画⇒実績見込⇒実績時点比較》



▼詳細は別添をご覧ください。

→ [「中小企業設備投資動向調査（2024年7月）」](#)